

魅力発見！ 世界農業遺産

世界16カ国37地域、日本では8地域が認定されている世界農業遺産。魅力的な世界農業遺産の一部を紹介します。



2011年認定 **チロエ農業**
チリ

ジャガイモの原産地として知られるチロエ島では、200品種ものジャガイモの在来種が栽培されており、その先祖伝来の慣行は、主に女性により何世代にもわたって口伝されています。また温帯雨林は希少な動植物のすみかとなっています。



2011年認定 **トキと共生する佐渡の里山**
新潟県佐渡市

金山の歴史が生み出した棚田などの水田で、冬期湛水など「生きものを育む農法」とその認証制度を推進しています。また、農業は、能、鬼太鼓などの農村文化発展につながっており、佐渡独自の自然、風景、文化、生物多様性を保全しています。



2015年認定 **みなべ・田辺の梅システム**
和歌山県みなべ・田辺地域

養分に乏しい礫質の斜面を利用し、梅林としての利用と周辺には薪炭林を残すことで水源涵養や崩落防止などの機能を持たせ、薪炭林に生息するニホンミツバチと梅との共生など、高品質な梅を持続的に生産する農業システムを実施しています。



写真：長島字矢崎地内の遊水地

【遊水地とは？】

洪水のときに一時的に水をためて下流に流れる水の量を減らすためのもの。普段は水田などに利用していて、洪水のときだけ水がたまる仕組みになっています。

Q1 世界農業遺産に認定されるとどのようなメリットがあるの？

地域固有の農業の価値が世界的に認められることで、地域の人たちに誇りと自信をもたらすとともに、農作物のブランド化や観光客誘致を通じた地域経済の活性化が期待されます。また、認定地域同士の交流など、国内外との連携強化も望めます。

Q2 世界農業遺産に認定されるとどのような義務があるの？

世界農業遺産の認定を受けた地域では、世界農業遺産の保全のための具体的な行動計画を定め、これに基づき、伝統的な農業・農法や豊かな生物多様性などを次世代に確実に継承していくことが求められます。

第1章 世界農業遺産 を知る

2016年9月29日、一関、奥州、平泉の3市町にまたがる東稲山麓地域の営農システムの世界農業遺産認定を目指す「東稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会」が発足し、平泉町役場で設立総会が開催されました。

地域の農業を守り、地域の活性化につながることを期待されている世界農業遺産とは一体何なのか、その姿に迫ります。



◀同協議会設立総会

世界農業遺産とは？

世界農業遺産は正式名称を「世界重要農業遺産システム(GIAHS)」と言います。国連食糧農業機関(FAO)が2002年から主として開発途上国向けの支援策として開始した仕組みで、次世代に継承すべき重要な伝統的農業(林業、水産業を含む)や生物多様性、農村文化、農業景観などを全体として認定し、その保全と持続的な活用を図るものです。これまでペルー、チリ、フィリピン、中国などの地域が認定されており、それぞれ地域固有の取り組みが行われています。日本でも11年に先進国として初めて佐渡地域(新潟県)と能登地域(石川県)が認定されました。

ユネスコの世界遺産との違い

国際連合教育科学文化機関(UNESCO)が推進する世界遺産が、遺跡や歴史的建造物、自然など「不動産」を登録し保護することを目的としているのに対して、世界農業遺産は、伝統ある地域の「システム」を認定することで保全につなげていくことを目指しています。地域の人たちが、時代や環境の変化に適応しながら伝統的農法などを実践していき、地域を活性化しながら持続可能な形で進化を続けていくため、世界農業遺産は「生きていく遺産」とも言われています。

世界農業遺産5つの認定基準

- ①食料と生計の保障 Ⅱ農業生産が食料と生計の保障に貢献しているか。
- ②生物多様性と生態系機能 Ⅱ環境が維持・保全され、生物多様性に富んだ地域であるか。
- ③知識システムと適応技術 Ⅱ地域の環境の変化に適応した優れた知識やシステムが確立されているか。
- ④文化、価値観、社会組織(農文化) Ⅱ農業に関連する特徴的な祭事などの文化が引き継がれているか。
- ⑤優れた景観と土地・水資源の管理 Ⅱ地域 Ⅱ地域の景観が歴史的にも貴重な資源であるとともに、営農を通じて美しい優れた景観であるか。